ほっとNEWS

2019年8、9、10月　NO.134

〒６５３－０８５３
神戸市長田区庄山町２丁目５番地１３号
フットバンクスインターナショナルビル1F
特定非営利活動法人 ほっとぽっと
TEL/Fax 078-766-1356
Email/hot-pot@hi-net.zaq.ne.jp
発行責任者　森岡 千代
編集責任者　松本 絵里奈

目次

閉じないで　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.1
りすさん&お兄ちゃん結婚の話をしよう(10)　・・・・・・・・P.2
まゆみのわくわくコラム
ある日のあかりや　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3
シリーズお世話になってます(21)
いらっしゃいませ　あかりやへ　・・・・・・・・P.4
ちーちゃんのひとこまエッセー　・・・・・・・・P.5
さきもと百合の映画談義　サキモト氏近況
ほっとぽっと　このごろ　編集後記　・・・・・・・・P.6

閉じないで

あかりやでの最近の話題。障がい者の地域生活についての話し合いの中で。

障がいのある人が外に出ることは、障がい当事者にとって社会経験を重ねる大切な第一歩ですが、同時に、地域社会がどれだけバリアフリーが進んでいるか、住みやすくなっているかを検証する事にも役立ちます。「もっと街に出よう」と今まで多くの障がい者が困難を乗り越え、勇気を持って外出し、その中で、多目的トイレが増えたり、駅や公共機関でエレベーターが完備されるようになったり、まだまだとはいえ、地域のバリアフリーが進んできました。「移動支援・同行援護」のサービスも、障がい者の外出を進める大きな支えです。

でも、現在、施設で暮らす障がい者は「移動支援」の制度が使えません。外出するには、介護人をみつけ、有償の費用を自費で支払わなければなりません。年金で暮らす人にとっては月１～２回が精一杯です。ほとんど毎日、一日中を施設の中で過ごし、20年30年になる人もめずらしくありません。「誰もが共に生きる社会を･･･」と当たり前のように言われるのに、外出さえ経験できない人が、どうして地域移行など出来るのでしょう？「施設で暮らす人には移動支援サービスは支給しない」というのは住む場所によって機会を制限する差別ではないかと本当に思います。施設に住む障がい者を、社会から閉め出している。多様性を認め合う社会を目指そうという流れの一方、そっと社会から外し目を閉じようとする方向が、ここにまだ残っています。

いや、閉じようとする動きは残っているだけでなく、油断すると、すぐ新たな形で閉じてきます。たとえば、障がいのある子供たちの就学指導です。これについては、次の機会に･･･。

あかりや日誌

８月７日　プールの会
　15日　朗読ライブ（台風のため延期）
　19・26日　キルトの会
　21日　SUN21　親の会
　31日　コスモスの会
９月４日　須磨ネット例会
　９・30日　キルトの会
　19日　朗読の会
　21日　コスモスの会
　25日　りすさんドレス完成
10月２日　須磨ネット例会
　５日　グリーンフェスタ（一部参加）
　９日　木工の会（講師中山さん）
　15日　朗読練習会
　17日　朗読ライブ開催
　22日　スタッフ鑑賞会（劇団四季）

朗　読　の　会

11月21日　第３木曜　　13:30～15:30

いつもの朗読の会を開きます。そろそろ朗読発表会の準備を始めなければ･･･。来年は、水上勉作「ブンナよ木から下りてこい」を予定しています。

参加費300円（資料･お茶代）

ほっとぽっと　このごろ

★ ２ヶ月合併が、今回は３ヶ月合併になってしまいました。次々、書くことは一杯あるんですが。スタッフの体力が追いつかない今日この頃です。愚痴っても仕方ないのでこの頃は「現状あるがまま。できることしかできない」という諦めの心境です（笑）

★ あかりや店長のトド丸女史が、来月腰椎の手術を受けることになりました。「痛みが、いよいよ我慢できなくなってきた。このましかめっ面で人生を送りたくない。」という決断です。術後しばらく店長不在になりますが、痛みは生活全般を灰色にします。痛みからの解放と早い回復を祈るばかりです。

★ 神戸市立だいち小学校から、今年も４年生の福祉授業の講師依頼がきました。これで３年目。今年は、松本絵里奈さん、新徳真弓さん、中畑寿康さんの３人が引き受けてくれました。11月12日に伺う予定です。

★ 最近Ｋ新聞社の若い記者さんとお話しする機会がありました。話の中で「少し昔、就学猶予・免除という制度があって、障がいの重い子は学校に来なくていいという時代があったよね。」と言うとびっくり！「え、知らないんだ！」とこちらもびっくり。昭和22年の一般の義務教育実施から32年遅れて、障がい児は昭和54年度義務制実施。あれから40年。就学免除は無くなったけど、就学の時期の親子の悩みは今も･･･。

編集後記

だんだんと秋の気配がしてきましたね。
私にとっては、嫌な季節です(>_<)
秋が終わるとさむーい冬が、やってくるから･･･
今から、風邪をひかないように気をつけないとです(@_@)
さて、秋と言えば、私の誕生日です(笑)
９月なので、もう過ぎてしまったのですが、
友達と一緒にお祝いをしました♡
一番仲良しの友達と私の誕生日が近いので、
毎年一緒にお祝いしているんです。

今年は、ちょっと大人しめに、外で美味しいランチを食べて、プレゼント交換をして･･･(*´∀｀*)
毎日LINEで話しているのに、話すことは尽きないもので、ずーっと話してました。
あかりやでも、誕生日当日にお祝いしてもらって、思い出に残る誕生日になりました！！

たまぴー

りすさん＆お兄ちゃん
結婚の話をしよう（10）

「二人のコミュニケーション」

先日、りすさんとお兄ちゃんが、それぞれ介護者さんを頼んで、二人であかりやに来てくれました。二人とも、元気になったようで、まずは安心。10月終わりに、完成したウェディングドレスの試着をした、りすさんとボランティアさんたちの写真で盛り上がりました。「お嫁さんの写真完成！あ、でもお婿さんがいない。お兄ちゃん、ちゃんとした服あるの？」お兄ちゃんは「OK！」スーツがあるらしい。

この日は二人で話し合って、そろってあかりやにきてくれたんだと思うけど、二人のコミュニケーションはどうやっているのかなあ。私たちは、二人のどちらとも、わかるまでに、結構苦労します。緊張のために発音がわかりにくいりすさん。お兄ちゃんは「はい」「いいえ」の合図とタブレットまたは文字盤で文字を指し示す。介助者がいないとき、二人はどうやって話しをしてるんでしょうね。もちろん、言葉を超えてわかり合える事もあるんでしょうけどね。日を決めるといった具体的な実務的な事は？

「アクセサリーを一緒に買いに行って」という事がうまく伝わらなくて、この日はちょっと揉めながら、帰って行ったお二人でした。

真弓のわくわくコラム・e・

「夏の思い出」

涼しくなりました。私の夏の思い出のベスト３を紹介します。

まず３位は、住宅の夏祭りです。ヘルパーさんとかき氷を食べたり盆踊りをしました。顔見知りだった人が初めて私の車イスを押してくれて、びっくりしたけど嬉しかったです。

２位は４泊５日のショートステイの時のことです。Ｔさん、Ｉさん、Ｎさんと沢山お話をしました。スマイルの夏祭りではＴさんと阿波踊りをしたり、秘密の記念写真を撮ったり、嬉しかったです（フフフ･･･）。

１位はＭさん、Ｔさん、Ｈさんと夏の遊びをしたことです。いぶき明生支援学校のプールに行きました。私はとっても気持ちよかったです。ほっとぽっとのＭちゃんも気持ちよさそうな顔をしていました。なつかしい先生にも会いました。沢山お話をしました。それから、ＨさんＴさんと一緒に、家でたこ焼きパーティーをしました。女子トーク（秘密の話）もしました。私は楽しかったです。

みなさんの夏の思い出は何ですか？

真弓

（下に関連写真）

８月７日、プールの会を、いぶき明生支援学校のプールをお借りして開きました。今年は予定が重なった人や、体調を悪くして参加できない人もいて、いつものメンバーは２人だけ。でも、妹やお友達も入って、しっかり楽しめました。年１回の楽しみ。また来年！

ポーアイにある、真弓さんの住む団地の夏祭り。今年も和気あいあい。おじさんたちがビールを楽しみ、おばさんたちのおしゃべりがあちこちで花咲き、子供たちが駆け回る。その中にストレッチャーに乗った真弓ちゃんがいるのもごく普通の事。

盆踊りの輪の中に、さりげないふれあいが、沢山生まれます。日本中に、こんな夏祭りが広がったら･･･夢のようですね。

あっ！みーつけた♪
ちーちゃんのひとこまエッセー

季節はもうすっかり秋になってしまいました。ついこの間まで暑かったのに、季節のうつろいがはげしすぎるこの頃。

ジオラマ展の人形たち

サキモト女史のイメージを形にする人形の集団が姿を現しました。なんとなく物語の世界が見えてきませんか？

まるで舞台の演出をしているみたいですね。
「王子とうさぎ」の物語です。

さきもと百合の
映画談義
は、しばらくお休みします。

サキモト氏近況

こんにちは。咲本百合です。
今、私は二つの病気を抱えています。
一つは、ひどい便秘で、お腹がいつも気持ち悪いのです。
もう一つは首の一番上の骨が変形していて、神経が圧迫されています。身体を動かすのがあまりできません。まるで、着ぐるみ状態です。
前は、自分で座れていたのですが、できなくなってしまいました。
でも、治ると思っています。がんばって治そうと思っています。前のように動けて、あちこち行けるようになりたいと思っています。
希望はあると思っています。
なので、応援してくださいね。

先日、一緒に記事を書いた時、サキモト女史が上の文章を書きました。
少し前から、身体に力が入りにくくなってきて、「これはおかしい！」と気がついたのが夏の初めでした。いろいろあって、ちゃんと大学病院で診てもらえたのが、9月の初め。そして、10 月初めに本人が書いているような診断が出ました。「みんなが心配するから書かない」と言っていましたが、手術を受ける方向で医師と相談しています。
診断を聞いたとき、サキモト女史は、「そうか、手術できるのか、よかった！」と驚くほどの前向き姿勢でした。
それまで自分の身体がどうなっているのかわからなくて、とても不安だったのだそうです。しばらく女史の元気な笑顔が見られなくて、心配していたのですが、本人のポジティブ思考に、周りが救われました。少し長い闘いになるけど、みんなで支えていこうと思っています。まず、手術までに「ジオラマ展」を実現しようと思っています。